（別紙様式4）

令和8年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校穴吹ITビジネスカレッジ	平成4年4月1日	鏡原　寿吉	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-5700
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-2266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	情報システム学科	平成15(2003)年度	－	平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	コンピュータ全般の知識、プログラミング、システム設計、ネットワーク、サーバー構築などの技術を修得させ、ユーザの要望を満たす業務システムやスマートフォンのアプリ開発ができる技術と企画提案力を兼ね備えた人材を養成する
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	基本情報技術者試験、Javaプログラミング能力認定試験、情報検定J検情報システム試験

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	97　単位	38 単位	59 単位	0 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
45 人	56 人	1 人	0 %	4 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	18	人
■就職希望者数（D）	17	人
■就職者数(E)	17	人
■地元就職者数（F）	9	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	53	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	94	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

システムエンジニア職、プログラマ職、システム担当職等

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数		97 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	9 単位
	うち必修単位数	97 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	9 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	2 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		5 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年9月16日　15:30～17:00/第2回　令和8年3月4日　15:00～17:00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
久米　洋介	香川県情報サービス産業協議会	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
鬼武　克行	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
亀田　健司	シフトシステム株式会社	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
葉坂　量雄	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
山崎　正宏	株式会社ヘルツ	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
鏡原　寿吉	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
壽福　英尚	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(ITビジネス担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
松元　賢一	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　第1教務部　教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
榎本　靖之	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　第1教務部　教務次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
松原　誠	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　第1教務部　教務課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
濵野　茂雄	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(国際系担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している

e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
卒業研究 （企画・設計）	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	企業のプロジェクトチームという設定で、現状の業務やシステムに対する新しい提案を行い、システム構築に必要な要求定義をまとめる能力を、演習を通し理解する。	㈱穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部
卒業研究	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	前期に企画したシステムをプロジェクトチームの一員として、システム完成を目指し、学んできたプログラム言語やシステム開発の知識を実務に応用する力を習得する。	㈱穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	セキュリティ講座	連携企業等：㈱ネットワークバリューコンポーネンツ
期間：	令和7年7月2日（水）	対象：全教員
内容	無線LANの最新動向、セキュリティの現在と未来を学ぶ	
研修名：	AI × 変革　～未来を語るビジネスカンファレンス～	連携企業等：Michikusa㈱,レノボ・ジャパン合同会社
期間：	令和7年8月27日（水）	対象：IT系学科担当教員
内容	AI×未来 、AI×変革、AI×スポーツ、AI×あなたらしさ	
研修名：	DXリテラシー研修	連携企業等：日本電気株式会社（NEC）
期間：	令和7年7月28日（月）～8月27日（水）	対象：IT系学科担当教員
内容	すべてのビジネスパーソンのためのDXリテラシー、LLMリテラシー等	
研修名：	デジタルマーケティング勉強会	連携企業等：学校法人浦山学園
期間：	令和7年9月12日（金）	対象：全教員
内容	若者は「縦ショート動画」、高校生獲得の5つのコンテンツ、社会人のAIリスキリング	
研修名：	AI時代の検索と広告戦略	連携企業等：学校法人浦山学園
期間：	令和8年2月16日（月）	対象：全教員
内容	若者は「縦ショート動画」、高校生獲得の5つのコンテンツ、社会人のAIリスキリング	
研修名：	デジタルマーケティング勉強会	連携企業等：Ahrefs Japan
期間：	令和8年2月16日（月）	対象：全教員
内容	SEOの社会的意義とこれからのGEO、AI検索で勝つブランド戦略 、AI時代のマーケティング変革	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第1回非認知能力勉強会	連携企業等：All HEROs 合同会社
期間：	令和7年5月19日（月）	対象：全教員

内容	非認知能力リストを学校の理念や取り組み、特徴に照らし合わせ、これまで以上に能力を伸ばす指針作りを行う

研修名：	第2回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年6月19日（木）	対象：	全教員
内容	気づきと学びにつなげる“振り返り”と関わり方、“非認知能力って何？”を丁寧に届ける。マインドセットを育む“伝え方”の見直し		

研修名：	第3回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年8月18日（月）	対象：	全教員
内容	気づきと学びにつなげる“振り返り”と関わり方、“非認知能力って何？”を丁寧に届ける。マインドセットを育む“伝え方”の見直し		

研修名：	教育の質向上「学習評価」セミナー	連携企業等：	福岡大学
期間：	令和7年7月、9月	対象：	全教員
内容	専門学校教育において必要な学習評価に関する基礎知識の習得および教育改善への活用　他		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日経デジタルフォーラム“2025年の崖”のその先へ	連携企業等：	アクセンチュア㈱
期間：	令和8年5月26日（火）	対象：	IT系学科担当教員
内容	AI時代におけるデータ活用とレガシーシステム脱却に向けた政策について等		

研修名：	日経オンラインセミナー	連携企業等：	日本アイ・ビー・エム㈱
期間：	令和8年6月30日（火）	対象：	IT系学科担当教員
内容	AIエージェントの実装に向けた「攻め」のガバナンス～法令動向かリスクマネジメントまで～等		

研修名：	サイバー攻撃から社会基盤を守る最前線と実践戦略	連携企業等：	東京大学、警視庁等
期間：	令和8年7月22日（水）	対象：	IT系学科担当教員
内容	AI前提の重要インフラにおけるサイバーセキュリティー、東芝に聞く、製品セキュリティの現場等		

研修名：	侵害を前提としたAI vs AI時代のセキュリティ戦略	連携企業等：	㈱マクニカ、Vectra AI Japan㈱
期間：	令和8年9月3日（木）	対象：	IT系学科担当教員
内容	NDRの役割とVectraAIによるランサムウェア対策強化、進化を続けるVECTRA NDR概要等		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	中堅教職員研修会	連携企業等：	NPO日本教育カウンセラー協会
期間：	令和8年7月30日（木）～7月31日（金）	対象：	全教員
内容	学級経営の基盤と学生理解、人間関係づくり：グループアプローチ等		

研修名：	PlayMake　&　CQ研修	連携企業等：	中小企業ものづくり共創協会
期間：	令和8年9月	対象：	全教員
内容	CQ解説、PLAYmakeを使ったログハウス制作グループワーク		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	

①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4 学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
（4）教育実施組織・教員	
1 教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
（5）教育環境	
1 教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
（6）教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1 中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2 学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）。	同内容評価項目を設けている
3 学校評価の実施と改善活動	

①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
渡邉　浩司	香川県立高松東高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	高等学校関係
尾本　昭宣	㈱穴吹カレッジサービス　ソフト開発事業部	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
三宅　由里恵	穴吹興産株式会社	令和8年10月1日～令和9年3月31日（6カ月）	企業等委員
植田　真治	㈲サンファソン	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
橋谷　陽子	あなかれほいくえん高松	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
内海　恭子	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ保護者会	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	保護者
藤井　恵		令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/		
公表時期	令和8年3月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/		
公表時期	令和8年3月31日		

授業科目等の概要

	（工業専門課程 情報システム学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する。	1前	4	○			○		○		
2	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者）取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する。	1後	2	○			○		○		
3	○			ネットワーク・セキュリティ基礎	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術特にネットワーク分野の基本的な知識を習得する。	1前	2	○			○		○		
4	○			アルゴリズム	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格（基本情報技術者）の科目（フローチャート・擬似言語）の理解度を高める。	1後	2		○		○		○		
5	○			データベース設計演習	データベースの設計するために必要な知識として、各種スキーマの基礎からデータベース設計の基本を習得する。	1前	1		○		○			○	
6	○			データベース演習	SQLの基礎を理解する。	1後	1	○			○			○	
7	○			ＪａｖａⅠ	java言語の基本制御文からオブジェクト指向を意識したプログラミングを理解する力を身につける。また基本情報技術者試験の科目Ｂの理解支援と位置づける。	1前	3		○		○		○		
8	○			ＪａｖａⅡ	ＪａｖａⅠの内容の理解を高める。加えて例外処理やマルチスレッドなど、本格的なプログラミングに必須の技術を習得する。	1後	2		○		○		○		
9	○			ネットワーク・セキュリティ演習	システムエンジニアとして必要なネットワーク技術の基本を習得する。	1後	1		○		○		○		
10	○			フロントエンド・コーディング入門	Webサイトを構築するために必須となる言語を学び、静的なWebサイトの構築技術を習得する。	1前	1		○		○		○		
11	○			情報処理講座Ⅰ	情報活用試験1級の試験対策を行う。	1前	4		○		○		○		
12	○			情報処理講座Ⅱ	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	1後	4		○		○		○		
13	○			デザイン思考Ⅰ	デザイン（設計）を行う際のプロセスを用いてユーザーの課題を定義し、解決策を見いだすマインドセットを実践を通して学習する。	1前	1		○		○		○		

14	○			デザイン思考Ⅱ	デザイン（設計）を行う際のプロセスを用いてユーザーの課題を定義し、解決策を見いだすマインドセットを実践を通して学習する。	1後	1		○		○		○		
15	○			システム開発演習（ノーコード）	ノーコードツールを活用し、要件定義から設計・実装・テストまでを体験しながらシステム開発の流れを実践的に学ぶ。	1後	1		○		○		○		
16	○			データサイエンスⅠ	統計学の基本概念を学び、表計算ソフトを活用してデータ分析の実践的なスキルを身につけます。データを適切に整理・可視化し、統計的手法を用いて意思決定に役立てる力を養う。	1前	1		○		○		○		
17	○			データサイエンスⅡ	統計学の基本概念を学び、表計算ソフトを活用してデータ分析の実践的なスキルを身につけます。データを適切に整理・可視化し、統計的手法を用いて意思決定に役立てる力を養う。	1後	1		○		○		○		
18	○			ビジネスツール演習Ⅰ	ビジネスの現場で必須となるビジネスツールソフトの基本操作と実践的な活用方法を学ぶ。実際の業務を想定した演習を通じて、効率的なデータ整理、資料作成、プレゼンスキルを習得する。	1前	1		○		○		○		
19	○			ビジネスツール演習Ⅱ	ビジネスの現場で必須となるビジネスツールソフトの基本操作と実践的な活用方法を学ぶ。実際の業務を想定した演習を通じて、効率的なデータ整理、資料作成、プレゼンスキルを習得する。	1後	1		○		○		○		
20	○			サーバー構築演習	LinuxOSのインストールと各種サーバーの構築手法を学ぶ。	2後	3		○		○		○		
21	○			JavaScript&Ajax Ⅰ	Webページでjavascriptを使うための基礎を学習する。javascriptライブラリ「jQuery」を利用したWebアプリケーションの制作方法を学習する。	2前	2		○		○			○	
22	○			Webアプリケーション演習	PHPを使ったWebアプリケーションを作成するスキルを養う。MySQLを使ってSQLを学習する。HTTPの基本的な仕組みについて理解する。	2前	3		○		○		○		
23	○			UML	オブジェクト指向の基本概念を理解する。UMLダイアグラムを理解する。プログラムを設計するための指標とする。	2前	2	○			○		○		
24	○			JavaScript&AjaxⅡ	JSONを理解する。javascriptでサーバとクライアントの連携を学習する。	2後	2		○		○			○	
25	○			FP講座Ⅰ	お金の基本知識、資産運用、ライフプランニング について学び、個人や家庭での適切な資産管理の方法を理解。実際のシミュレーションを通じて、貯蓄・投資・保険・税金などの基礎を身につけ、将来の生活設計に役立てるスキルを習得する。	2後	1		○		○		○		
26	○			IoT演習Ⅰ	電気回路の基礎を学習する。Arduinoのプログラム基礎を学習する。	2前	2		○		○			○	
27	○			IoT演習Ⅱ	IoT演習Ⅰの内容を発展させ各種センサーを利用したアプリケーションの開発を行う。	2後	1		○		○			○	

28	○			バックエンド開発演習Ⅰ	Webサイトを構築するために必須となる言語を学び、静的なWebサイトの構築技術を学習する。	2前	2		○		○		○		
29	○			バックエンド開発演習Ⅱ	Webサイトを構築するために必須となる言語を学び、静的なWebサイトの構築技術を学習する。	2後	2		○		○		○		
30	○			情報処理講座Ⅲ	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	2前	2	○			○		○		
31	○			情報処理講座Ⅳ	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	2後	2	○			○		○		
32	○			専攻Ⅰ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2前	1		○		○		○		
33	○			専攻Ⅱ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2後	1		○		○		○		
34	○			社会人基礎講座Ⅰ	就職活動の流れを知り、いつ、何を、どんな形でやるべきかを理解する。就職活動に臨むにあたり必要な常識、マナー、ルールを理解する。自己分析を行うとともに、自分の考えを他人に理解してもらう為に必要な表現力を高める。	2後	2	○			○		○		
35	○			ビジネスプレゼンⅠ	就職活動に向けて、繰り返しLT(ライトニングトーク)等を実施し、対人プレゼンテーション力を高める。	2前	2	○			○		○		
36	○			ビジネスプレゼンⅡ	改まった場でのプレゼンテーションなど、様々な場所や機会に応じた、的確で効果的な対応能力を養う。	2後	2	○			○		○		
37	○			アジャイル開発演習	スパイラルモデル、アジャイル、スクラムでの開発手法に基づいたシステム開発を行う。開発手法を通じて、開発チームで必須のコミュニケーション能力を養う。	3前	3		○		○		○		
38	○			RPA演習	コンピュータ上で行われる業務プロセスや作業を人に変わり自動化する技術を習得する。	3前	1		○		○		○		
39	○			セキュアプログラミング演習	Webアプリケーションに起こりうる脆弱性の問題と対策について学習し、PHP、データベース利用においての安全なWebサイトの実装を学習する。	2後	2		○		○		○		
40	○			AIプロダクト開発演習	生成AIをはじめとする最新のAI技術を活用したプロダクト開発のプロセスを実践的に学ぶ。アイデア発想から企画設計、プロトタイプ開発、検証、発表までを一貫して行い、社会課題解決や新しい価値創造を目指す。	3後	1		○		○		○		
41	○			卒業制作（企画・設計）	これまで学んできたことを基に、今問題となっていることを解決できるシステム・アプリを企画する。また後期の実装工程をにらみ、実現方法を確定する。	3前	2		○		○		○	○	○

42	○			卒業制作	前期に企画した内容を元に製品を完成する。プロジェクトチームの一員として、協調してより良いシステム開発を目指す。	3後	7		○		○		○	○	○
43	○			クラウド演習	様々なサービスをクラウド上で提供しているAWSを利用したクラウドサービスの構築技術を習得し、その技術認定資格であるAWSクラウドプラクティショナー、AWSソリューションアーキテクトを習得する。	3前	2		○		○		○		
44	○			UIデザイン	ボタンの配置や配色に配慮した使い易い画面設計について学ぶ。	3後	2	○			○		○		
45	○			クラウド応用	EC2やELB等を組み合わせ、負荷や障害に強いアーキテクチャを構築する。	3後	1		○		○		○		
46	○			AIと社会	AI概念の理解だけでなく、AIを活用した戦略、AIが社会にどのような変化をもたらすかについて学習する。また、機械学習やディープラーニングの仕組みや、人工知能ビジネスが必ずぶつかる「法律の壁」についても学習する。	3後	2	○			○		○		
47	○			動画制作	動画制作の流れ「企画・構成、撮影、編集、公開」の「企画・構成」について学びながら、効率的な動画制作方法を学習する。	3前	1		○		○		○		
48	○			Unity入門	ゲーム開発やインタラクティブコンテンツ制作に必要な基礎技術を学びます。３D・２D空間の扱い方、オブジェクトの配置、アニメーション、物理演算、プログラミングなどを実践的に学びながら、自分のアイデアを形にする力を養います。	3後	1		○		○		○		
49	○			社会人基礎講座Ⅱ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する。	3前	2	○			○		○		
50	○			ビジネス文書	社内や取引先との間で交わされる報告書、礼状などのビジネス文書作成時に必要な知識や技能を養う。	3前	4	○			○		○		
合計					50 科目											
					97 単位											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①必修及び選択必修全科目の成績がＣ評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が９０%以上 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定	１学期の授業期間	15 週

（別紙様式4）

令和8年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校穴吹ITビジネスカレッジ	平成4年4月1日	鐃原　寿吉	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-5700
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-2266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ学科	令和 1(2019)年度	－	令和 2(2020)年度

学科又は専攻科の目的	コンピュータ全般の知識、ネットワーク設計、サーバ構築、情報セキュリティなどの技術を修得させ、個人・企業・社会におけるすべての情報インフラ基盤を支える堅牢な技術と情報モラルを兼ね備えた人材を養成する
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	基本情報技術者試験、情報マネジメント試験、情報処理安全確保支援士試験、CCNA取得相当のカリキュラム

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	71　単位	30 単位	41 単位	0 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
30 人	12 人	0 人	0 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	13	人
■就職希望者数 (D)	13	人
■就職者数(E)	12	人
■地元就職者数 (F)	7	人
■就職率 (E/D)	92	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	58	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	92	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

ネットワークエンジニア、システムエンジニア、システム担当等

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

総単位数		71 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	1 単位
	うち必修単位数	71 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	1 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	2 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		5 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年9月16日　15：30～17：00/第2回　令和8年3月4日　15：00～17：00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
久米　洋介	香川県情報サービス産業協議会	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
鬼武　克行	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
亀田　健司	シフトシステム株式会社	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
葉坂　量雄	株式会社穴吹カレッジサービスソフト開発事業部	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
山崎　正宏	株式会社ヘルツ	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
鏡原　寿吉	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
壽福　英尚	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(ITビジネス担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
松元　賢一	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　第1教務部　教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
榎本　靖之	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　第1教務部　教務次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
松原　誠	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　第1教務部　教務課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
濵野　茂雄	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(国際系担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	

c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
セキュリティ実践演習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	習得したネットワーク・サーバ構築・セキュリティの技術を活かし、様々な問題を設問し、学内トラブルシューティングコンテストの企画・環境構築・準備・開催までを行っていく。	株式会社 ロジック

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	セキュリティ講座	連携企業等：	㈱ネットワークバリューコンポーネンツ
期間：	令和7年7月2日（水）	対象：	全教員
内容	無線LANの最新動向、セキュリティの現在と未来を学ぶ		
研修名：	AI × 変革　～未来を語るビジネスカンファレンス～	連携企業等：	Michikusa㈱,レノボ・ジャパン合同会社
期間：	令和7年8月27日（水）	対象：	IT系学科担当教員
内容	AI×未来 、AI×変革、AI×スポーツ、AI×あなたらしさ		
研修名：	DXリテラシー研修	連携企業等：	日本電気株式会社（NEC）
期間：	令和7年7月28日（月）～8月27日（水）	対象：	IT系学科担当教員
内容	すべてのビジネスパーソンのためのDXリテラシー、LLMリテラシー等		
研修名：	デジタルマーケティング勉強会	連携企業等：	学校法人浦山学園
期間：	令和7年9月12日（金）	対象：	全教員
内容	若者は「縦ショート動画」、高校生獲得の5つのコンテンツ、社会人のAIリスキリング		
研修名：	AI時代の検索と広告戦略	連携企業等：	学校法人浦山学園
期間：	令和8年2月16日（月）	対象：	全教員
内容	若者は「縦ショート動画」、高校生獲得の5つのコンテンツ、社会人のAIリスキリング		
研修名：	デジタルマーケティング勉強会	連携企業等：	Ahrefs Japan
期間：	令和8年2月16日（月）	対象：	全教員
内容	SEOの社会的意義とこれからのGEO、AI検索で勝つブランド戦略 、AI時代のマーケティング変革		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第1回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年5月19日（月）	対象：	全教員

内容	非認知能力リストを学校の理念や取り組み、特徴に照らし合わせ、これまで以上に能力を伸ばす指針作りを行う		
研修名：	第2回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年6月19日（木）	対象：	全教員
内容	気づきと学びにつなげる“振り返り”と関わり方、“非認知能力って何？”を丁寧に届ける。マインドセットを育む“伝え方”の見直し		
研修名：	第3回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年8月18日（月）	対象：	全教員
内容	気づきと学びにつなげる“振り返り”と関わり方、“非認知能力って何？”を丁寧に届ける。マインドセットを育む“伝え方”の見直し		
研修名：	教育の質向上「学習評価」セミナー	連携企業等：	福岡大学
期間：	令和7年7月、9月	対象：	全教員
内容	専門学校教育において必要な学習評価に関する基礎知識の習得および教育改善への活用　他		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	日経デジタルフォーラム“2025年の崖”のその先へ	連携企業等：	アクセンチュア㈱
期間：	令和8年5月26日（火）	対象：	IT系学科担当教員
内容	AI時代におけるデータ活用とレガシーシステム脱却に向けた政策について等		
研修名：	日経オンラインセミナー	連携企業等：	日本アイ・ビー・エム㈱
期間：	令和8年6月30日（火）	対象：	IT系学科担当教員
内容	AIエージェントの実装に向けた「攻め」のガバナンス～法令動向かリスクマネジメントまで～等		
研修名：	サイバー攻撃から社会基盤を守る最前線と実践戦略	連携企業等：	東京大学、警視庁等
期間：	令和8年7月22日（水）	対象：	IT系学科担当教員
内容	AI前提の重要インフラにおけるサイバーセキュリティー、東芝に聞く、製品セキュリティの現場等		
研修名：	侵害を前提としたAI vs AI時代のセキュリティ戦略	連携企業等：	㈱マクニカ、Vectra AI Japan㈱
期間：	令和8年9月3日（木）	対象：	IT系学科担当教員
内容	NDRの役割とVectraAIによるランサムウェア対策強化、進化を続けるVECTRA NDR概要等		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	中堅教職員研修会	連携企業等：	NPO日本教育カウンセラー協会
期間：	令和8年7月30日（木）～7月31日（金）	対象：	全教員
内容	学級経営の基盤と学生理解、人間関係づくり：グループアプローチ等		
研修名：	PlayMake　&　CQ研修	連携企業等：	中小企業ものづくり共創協会
期間：	令和8年9月	対象：	全教員
内容	CQ解説、PLAYmakeを使ったログハウス制作グループワーク		
研修名：	#REF!	連携企業等：	#REF!
期間：	#REF!	対象：	#REF!
内容	#REF!		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	

①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3 単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4 学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
（4）教育実施組織・教員	
1 教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
（5）教育環境	
1 教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 施設・設備等の点検、改善等	

①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
渡邉　浩司	香川県立高松東高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	高等学校関係
尾本　昭宣	㈱穴吹カレッジサービス　ソフト開発事業部	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
三宅　由里恵	穴吹興産株式会社	令和8年10月1日～令和9年3月31日(6カ月)	企業等委員
植田　真治	㈲サンファソン	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
橋谷　陽子	あなかれほいくえん高松	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
内海　恭子	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ保護者会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者
藤井　恵		令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/		
公表時期	令和8年3月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/		
公表時期	令和8年3月31日		

授業科目等の概要

	（工業専門課程 ネットワークセキュリティ学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する。	1前	4	○			○		○		
2	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者）取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する。	1後	2	○			○		○		
3	○			アルゴリズム	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格（基本情報技術者）の科目（フローチャート・擬似言語）の理解度を高める。	1後	2		○		○		○		
4	○			データベース設計	データベースの設計するために必要な知識として、各種スキーマの基礎からデータベース設計の基本を習得する。	1前	1		○		○			○	
5	○			データベース演習	SQLの基礎を理解する	1後	1		○		○			○	
6	○			ＪａｖａⅠ	java言語の基本制御文からオブジェクト指向を意識したプログラミングを理解する力を身につける。また基本情報技術者試験の科目Ｂの理解支援と位置づける。	1前	3		○		○		○		
7	○			ネットワーク演習基礎Ⅰ	TCP/IPの基本的な知識を習得し、ルータ・スイッチの基本的な設定を習得する	1前	2		○		○		○		
8	○			ネットワーク演習基礎Ⅱ	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術特にネットワーク分野の基本的な知識を習得する。	1後	3		○		○		○		
9	○			フロントエンド・コーディング入門	Webサイトを構築するために必須となる言語を学び、静的なWebサイトの構築技術を習得する。	1前	1		○		○		○		
10	○			情報処理講座Ⅰ	国家資格（基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント）の分野別対策を行い、問題解答を通じて、応用力を習得する	1前	4	○			○		○		
11	○			情報処理講座Ⅱ	国家資格（基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント）の分野別対策を行い、問題解答を通じて、応用力を習得する	1後	4	○			○		○		

12	○			情報セキュリティⅠ	基本的なネットワークやセキュリティに関する知識や技術を学び、国家資格（基本情報技術や）やCompTIA Security+の取得ができるレベルを目指す	1前	2	○			○		○		
13	○			情報セキュリティⅡ	基本的なネットワークやセキュリティに関する知識や技術を学び、国家資格（基本情報技術や）やCompTIA Security+の取得ができるレベルを目指す	1後	4	○			○		○		
14	○			サーバー構築演習	内部サーバ・外部サーバそれぞれに適した構築と設定を習得し、稼働しているサーバの運用管理の手法とセキュリティ対策の方法を習得する。	1後	3		○		○			○	
15	○			社会人基礎講座Ⅰ	就職活動の流れを知り、いつ、何を、どんな形でやるべきかを理解する。就職活動に臨むにあたり必要な常識、マナー、ルールを理解する。自己分析を行うとともに、自分の考えを他人に理解してもらう為に必要な表現力を高める。	1前	2	○			○		○		
16	○			社会人基礎講座Ⅱ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する。	1後	2	○			○		○		
17	○			ネットワーク演習応用	VLANやEtherChannel、マルチエリアOSPFなどの高度なネットワーク技術を習得し、デフォルトゲートウェイの冗長化やVLAN間ルーティングのトラブルシュートを的確に行う力を身に付ける。	2前	3		○		○		○		
18	○			サイバー攻撃・防御演習Ⅰ	仮想環境を使って、安全な環境下でポートスキャンや中間者攻撃など、サーバに対する様々な攻撃手法とその防御方法を実践的に習得する。	2前	2		○		○		○		
19	○			サイバー攻撃・防御演習Ⅱ	ペネトレーションOSの利用方法を理解し、安全な環境下でサーバに対するエクスプロイト攻撃の手法とその早期発見、対策手法を実践的に習得する。	2後	2		○		○		○		
20	○			情報セキュリティⅢ	基本的なネットワークやセキュリティに関する知識や技術を学び、国家資格（基本情報技術や）やCompTIA Security+の取得ができるレベルを目指す。	2前	4	○			○		○		
21	○			サイバー攻撃・防御演習Ⅰ	ネットワークとサーバの構築技術を組み合わせ、総合的なシステムを構築し、システム運用時に起こる様々なインシデントを発見し、現象を把握して報告する流れを習得する。	2後	3		○		○		○	○	
22	○			セキュリティ実践演習	習得したネットワーク・サーバ構築・セキュリティの技術を活かし、様々な問題を設問し、学内トラブルシューティングコンテストの企画・環境構築・準備・開催までを行っていく。	2後	5		○		○		○		○
23	○			ＡＷＳクラウド演習	基本的なＡＷＳ(Amazon Web Service)のサービスを利用するうえで必要な基本的な知識を学ぶ。	2前	2		○		○		○		

24	○			ＡＷＳクラウド応用	クラウド上に基本的なWebアプリケーションを構築する為に必要なＡＷＳサービスを理解する。	2後	1		○		○		○		
25	○			Ｗｅｂアプリケーション演習	PHPを使ったWebアプリケーションを作成するスキルを養う。MySQLを使ってSQLを学習する。HTTPの基本的な仕組みについて理解する。	2前	3		○		○		○		
26	○			セキュアプログラミング演習	Webアプリケーションに起こりうる脆弱性の問題と対策について学習し、PHP、データベース利用においての安全なWebサイトの実装を学習する。	2後	2		○		○		○		
27	○			専攻Ⅰ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2前	1		○		○		○		
28	○			専攻Ⅱ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2後	1		○		○		○		
29	○			社会人基礎講座Ⅲ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する。	2前	2	○			○		○		
合計					29 科目				71 単位							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①必修及び選択必修全科目の成績がＣ評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が８０％以上 ③学費が納入されていること 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する。	１学期の授業期間	15 週

（別紙様式4）

令和8年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校穴吹ITビジネスカレッジ	平成4年4月1日	鏡原　寿吉	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-5700
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-2266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化教養専門課程	外語ビジネス学科	令和 4(2022)年度	－	令和 4(2022)年度

学科又は専攻科の目的	国内外の幅広い業界で活躍できるグローバル人材を育成するために英語・第二外国語と同時にビジネス・サービス系スキルの習得を目指す。また、外国語系大学進学や海外留学により、知見を広げ、語学力の更なるスキルアップやキャリアアップを目指す人材を養成する。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	TOEIC、英語技能検定2級、HSK検定3級、ハングル検定、ビジネス文書検定3級、ビジネス実務マナー検定3級、Word3級、Excel3級、PowerPoint初級

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	97　単位	82 単位	13 単位	2 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
30 人	7 人	1 人	0 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	7	人
■就職希望者数（D）	7	人
■就職者数(E)	7	人
■地元就職者数（F）	6	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	86	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	100	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

営業職、販売職、総合職、受付業務　等

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/business/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数	97 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	2 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
うち必修単位数	97 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	2 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	2 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	0 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		2 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年9月5日　14:00～16:00/第2回　令和8年2月27日　14:00～16:00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
新池　伸司	香川県商工会議所連合会、高松商工会議所 専務理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	①
宮田　貴雅	㈱中国四国博報堂　広島本社　プラニング局 局長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
堤　秀樹	㈱穴吹ハウジングサービス　総務人事本部 総務部　部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
水田　賢治	独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)地域統括センター長(四国)香川貿易情報センター　所長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
安部　圭太	アイル・パートナーズ株式会社　取締役 営業本部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
鏡原　寿吉	専門学校　穴吹ビジネスカレッジ　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	―
壽福　英尚	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(ITビジネス担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
松元　賢一	専門学校　穴吹ビジネスカレッジ　教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	―
岡田　大海	専門学校　穴吹ビジネスカレッジ　教務課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	―
濵野　茂雄	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(国際系担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
インターンシップ(県内)	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	学内で学んだ英語やホスピタリティの知識を英語幼稚園、ホテルなどの現場で体験実習し、各業界におけるスタッフの役割を主体的に学ぶことで英語力と対応力に磨きをかける。	穴吹エンタープライズ株式会社、四国航空株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規定に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的として、企業や各種団体との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施していく。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	セキュリティ講座	連携企業等：	㈱ネットワークバリューコンポーネンツ
期間：	令和7年7月2日（水）	対象：	全教員
内容	無線LANの最新動向、セキュリティの現在と未来を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第1回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年5月19日（月）	対象：	全教員
内容	非認知能力リストを学校の理念や取り組み、特徴に照らし合わせ、これまで以上に能力を伸ばす指針作りを行う		
研修名：	第2回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年6月19日（木）	対象：	全教員
内容	気づきと学びにつなげる“振り返り”と関わり方、“非認知能力って何？”を丁寧に届ける。マインドセットを育む“伝え方”の見直し		
研修名：	第3回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年8月18日（月）	対象：	全教員
内容	気づきと学びにつなげる“振り返り”と関わり方、“非認知能力って何？”を丁寧に届ける。マインドセットを育む“伝え方”の見直し		
研修名：	デジタルマーケティング勉強会	連携企業等：	Ahrefs Japan
期間：	令和8年2月16日（月）	対象：	全教員
内容	SEOの社会的意義とこれからのGEO、AI検索で勝つブランド戦略 、AI時代のマーケティング変革		
研修名：	教育の質向上「学習評価」セミナー	連携企業等：	福岡大学
期間：	令和7年7月、9月	対象：	全教員
内容	専門学校教育において必要な学習評価に関する基礎知識の習得および教育改善への活用　他		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	貿易実務ハイブリッド(物流・金融)セミナー	連携企業等：	JETRO香川貿易情報センター
期間：	令和8年10月	対象：	貿易業務に携わる実務者
内容	国際物流と貿易金融の両面をわかりやすく解説		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	選ばれるInstagramコンセプトの作り方講座	連携企業等：	Setouchi i Base
期間：	令和8年9月	対象：	全教員
内容	Instagram運用において、ターゲットのニーズや競合・自社の強みを分析し、「誰に、何を、なぜ届けるのか」というコンセプトを明確にする重要性と、AIを活用した効果的なリサーチ方法について学んだ。		
研修名：	産学連携推進リーダー育成講座研修	連携企業等：	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間：	令和7年11月	対象：	全教員
内容	『産学連携推進員育成講座』を活用し、企業との協働に必要な知識・スキルを向上させ、各校・各地域で産学連携推進員を育成する役割を担う。		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1 教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1 教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2 教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3 単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4 学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
(4)教育実施組織・教員	
1 教員の配置、募集、採用	

①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
（5）教育環境	
1 教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
（6）教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1 中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2 学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）。	同内容評価項目を設けている
3 学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4 社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
渡邉 浩司	香川県立高松東高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	高等学校関係
尾本 昭宣	㈱穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
三宅 由里恵	穴吹興産株式会社	令和8年10月1日～令和9年3月31日（6カ月）	企業等委員
植田 真治	㈲サンファソン	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
橋谷 陽子	あなかれほいくえん高松	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
内海 恭子	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ保護者会	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	保護者
藤井 恵		令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/		
公表時期	令和8年3月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/		
公表時期	令和8年3月31日		

授業科目等の概要

	（文化教養専門課程 外語ビジネス学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			英検対策Ⅰ	英語系検定取得に特化した授業で、TOEIC 600点と英検2級取得を目指す。TOEIC対策ではビジネス英語の基礎を、英検対策では英文法や英作文の基礎的な学習も行う。	1前	6	○			○		○		
2	○			英検対策Ⅱ	英検取得に特化した授業で、英検2級取得を目指す。英文法や英作文の基礎的な学習を前提に、応用問題にも対応できるような力を養う。	1後	6	○			○		○		
3	○			Listening & SpeakingⅠ	日常やキャンパスでの簡単な会話場面を想定した会話をロールプレイ形式で学習し、特にリスニングスキルを伸ばすことを目指す。	1前	4	○			○			○	
4	○			Listening & SpeakingⅡ	日常やキャンパスでの簡単な会話場面を想定した会話をロールプレイ形式で学習し、特にリーディングスキルを伸ばすことを目指す。	1後	4	○			○			○	
5	○			Hospitality EnglishⅠ	接客英会話の中でも特にホテルスタッフのおもてなし英会話を学習し、英語応対能力検定（宿泊編）A～Bレベルの取得を目指す。	1前	2	○			○			○	
6	○			Hospitality EnglishⅡ	接客英会話の中でも特にホテルスタッフのおもてなし英会話を学習し、英語応対能力検定（宿泊編）A～Bレベルの取得を目指す。	1後	2	○			○			○	
7	○			韓国語Ⅰ	韓国語の入門レベルの学習を行う。入門レベルの単語や文法の学習を行い、簡単な韓国語会話ができるようになることを目指す。	1前	4	○			○			○	
8	○			韓国語Ⅱ	韓国語の入門レベルの学習を前提に、日常的な韓国語会話ができるようになることを目指す。	1後	4	○			○			○	
9	○			Excel演習	Excelの基本操作(表計算機能、グラフ作成機能、データベース機能、関数機能)を習得し、実務に即した技術を身に付けるとともに、Excel表計算処理技能認定試験2級を取得する。	1前	3		○		○			○	
10	○			Word演習	Wordの基本操作を習得し、実務に即した技術を身に付けるとともに、Word文書処理技能認定試験2級を取得する。 ・タッチタイピングをマスターすることにより、事務処理能力を向上させる。	1後	3		○		○			○	
11	○			観光インバウンド概論	観光インバウンドの基礎を学び、航空・旅行・ホテル、各業界の専門家による講義ではより深く各業界の知識を身につける。	1前	2	○			○		○		
12	○			海外語学研修	フィリピン・セブ島の語学学校で、２週間の語学研修を経験する。マンツーマンレッスンでの英語レッスンを毎日受講し、短期間での英語力向上や国際感覚を身につけるとともに、現地小学校でのボランティアなども参加し国際貢献の重要性を学ぶ。	1後	3		○			○	○		

13	○			インターンシップ（県内）Ⅰ	学内で学んだ英語やホスピタリティの知識を英語幼稚園、ホテルなどの現場で体験実習し、各業界におけるスタッフの役割を主体的に学ぶことで英語力と対応力に磨きをかける。	1前	1			○		○	○		○
14	○			インターンシップ（県内）Ⅱ	学内で学んだ英語やホスピタリティの知識を英語幼稚園、ホテルなどの現場で体験実習し、各業界におけるスタッフの役割を主体的に学ぶことで英語力と対応力に磨きをかける。	1後	1			○		○	○		○
15	○			TOEIC対策Ⅰ	検定取得に特化し、TOEICに向けた基礎的な知識を習得させ、試験に向けた心構えをつける。	2前	6	○			○		○		
16	○			TOEIC対策Ⅱ	試験に向けた対策として応用的な内容を扱い、TOEIC 750点を目指す。ビジネス英語の応用を身に付け、就職後の実践に役立てることを目的とする。	2後	6	○			○		○		
17	○			Listening & SpeakingⅢ	日常やキャンパスでの複雑な会話場面を想定しロールプレイ形式で学習していく。特にリスニングスキルを伸ばすことを目指す。	2前	4	○			○			○	
18	○			Listening & SpeakingⅣ	日常やキャンパスでの複雑な会話場面を想定した会話をロールプレイ形式で学習し、特にリーディングスキルを伸ばすことを目指す。	2後	4	○			○			○	
19	○			Business English	ビジネスの場面での様々な会話場面を想定し、ロールプレイ形式で学習していく。日本と欧米のビジネス概念の違いについても学ぶ。	2前	4	○			○			○	
20	○			Around the worldⅠ	英語で意見を伝え、相手の意見を理解しながら議論する力を育て考えを英語でしっかり伝える力を身につける。	2後	2	○			○			○	
21	○			Around the worldⅡ	英語で意見を伝え、相手の意見を理解しながらやや高度な議論する力を育て考えを英語でしっかり伝える力を身につける。	2前	2	○			○			○	
22	○			English Speech & Presentation	英語スピーチ大会の企画・運営、英語プレゼン部門への出場準備を行う。英語プレゼンでは、世界に発信したい日本や香川の観光や文化などそれぞれの興味に沿ってパワーポイントプレゼンテーションを行う。	2後	2	○			○			○	
23	○			中国語Ⅰ	中国語の入門レベルの学習を行う。入門レベルの単語や文法の学習を行い、簡単な中国語会話ができるようになることを目指す。	2前	4	○			○			○	
24	○			中国語Ⅱ	中国語の応用レベルの学習を行う。入門レベルの単語や文法の学習を行い、簡単な中国語会話ができるようになることを目指す。	2後	4	○			○			○	
25	○			PowerPoint演習	PowerPointの基本操作を習得し、プレゼンテーションを作成する方法を身に付けるとともに、プレゼンテーション技能認定試験を取得する	2前	2		○		○		○		
26	○			デジタルコミュニケーションⅠ	ビジネスにおけるコミュニケーションツールとしてインターネット、コンピュータ、スマートフォンなどを利用したコミュニケーションスキルを身につける。	2後	1		○		○			○	
27	○			デジタルコミュニケーションⅡ	学んだコミュニケーションスキルを社会に出てどう活かすかという視点で課題に取り組み、より高度なコミュニケーションスキルを身につける。	2前	1		○		○			○	

28	○			サービスマナー・ホスピタリティ概論Ⅰ	サービス業界で必須のサービスマナーやホスピタリティの基礎を学び、職場で即戦力として働ける人材を育成する。	2後	2	○			○		○		
29	○			サービスマナー・ホスピタリティ概論Ⅱ	サービス業界で必須のサービスマナーやホスピタリティの応用を学び、職場で即戦力として働ける人材を育成する。また、ビジネス文書検定3級合格を目指す。	2前	2	○			○		○		
30	○			貿易実務概論	海外ビジネス（海外取引）のパワーを学ぶ。貿易の基礎的な用語、簡単な英文書類、Eメールの知識、海外取引の特有のリスク、輸出入の流れなど、貿易実務の基礎知識を学ぶ	2後	2	○			○		○		
31	○			社会人基礎講座Ⅰ	就職試験で必要な、筆記試験(一般常識・SPI)と面接試験対策、社会常識を学ぶ。	2前	2	○			○		○		
32	○			社会人基礎講座Ⅱ	就職試験で必要な、筆記試験(一般常識・SPI)と面接試験対策、社会常識を学ぶ。	2後	2	○			○		○		
合計					32 科目											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①必修及び選択必修全科目の成績がＣ評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が８０％以上 ③学費が納入されていること 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定	１学期の授業期間	15 週

（別紙様式4）

令和8年11月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校穴吹ITビジネスカレッジ	平成4年4月1日	鏡原　寿吉	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-5700
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-2266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
商業実務	商業実務専門課程	国際ビジネス学科	令和 3(2021)年度	－	令和 5(2023)年度

学科又は専攻科の目的	高度な日本語力の習得をさせるとともに、各種資格の取得やコミュニケーション能力、社会人基礎力とデータ分析・マーケティングを習得する。また、異文化で生活することに意欲を持ち、自ら考えて行動する力を身に付けた人材を養成する。
学科又は専攻科の特徴(取得可能な資格、中退率　等)	取得可能な資格：日本語能力試験N1・N2、日本漢字能力検定、全経簿記能力検定3級、社会人常識マナー検定JapanBasic、電子会計実務検定3級、日本語ワープロ検定試験、情報処理技能検定　表計算2級

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	70　単位	28 単位	42 単位	0 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
100 人	100 人	100 人	100 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	54	人
■就職希望者数 (D)	51	人
■就職者数(E)	51	人
■地元就職者数 (F)	38	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	75	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	94	%
■進学者数	0	人

■その他

なし

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

(令和7年度卒業生)

一般企業、不動産系企業等

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://international.anabuki.ac.jp/introduction/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

総単位数	70 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	5 単位
うち必修単位数	70 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	5 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	3 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	1 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		7 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	6 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年10月30日　13：00～14：00／第2回　令和8年2月27日　14：00～16：00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
新池　伸司	香川県商工会議所連合会、高松商工会議所 専務理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
宮田　貴雅	㈱中国四国博報堂　広島本社　プラニング局 局長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
堤　秀樹	㈱穴吹ハウジングサービス　総務人事本部 総務部　部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
水田　賢治	独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)地域統括センター長(四国)香川貿易情報センター　所長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
安部　圭太	アイル・パートナーズ株式会社　取締役 営業本部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
鏡原　寿吉	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
壽福　英尚	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(ITビジネス担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
濵野　茂雄	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長(国際系担当)	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
松元　賢一	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
卒業制作Ⅰ・Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	日本人及び外国人をターゲットとするイベントをチームで企画し、運営する。校内外団体との連携も視野に入れ一過性のイベントではない形を目指す。最終発表では連携企業より意見及び評価をいただく。	高松商工会議所 杉住宅

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

時代とともに発展・変化していくビジネス業界に必要な資質を持った学生を送り出すための授業知識・技能を修得するために、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げ、それを教育の現場に持ち帰り教育の現場に反映させていくこととする。また、指導力向上のための指導者研修などにも積極的に参加することで教員としての資質の向上を図っている。必ず年に1回は研修に参加できるよう年度当初に計画・調整をする。学校は、教職員研修規定に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に関して「新任者研修」、管理教職員に関しては「管理職研修」、また各々指導分野における実務研修、見学研修を計画的に実施する。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	デジタルマーケティング勉強会	連携企業等：	Ahrefs Japan
期間：	令和8年2月16日（月）	対象：	全教員
内容	SEOの社会的意義とこれからのGEO、AI検索で勝つブランド戦略、AI時代のマーケティング変革		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第1回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年5月19日（月）	対象：	全教員
内容	非認知能力リストを学校の理念や取り組み、特徴に照らし合わせ、これまで以上に能力を伸ばす指針作りを行う。		
研修名：	第2回非認知能力勉強会	連携企業等：	All HEROs 合同会社
期間：	令和7年6月19日（木）	対象：	全教員
内容	気づきと学びにつなげる振り返りと関わり方、非認知能力、マインドセットを育む伝え方の見直し。		
研修名：	留学生指導者向けセミナー「なぜ留学生にマナーが伝わらないのか？」	連携企業等：	公益社団法人 全国経理教育協会
期間：	令和8年9月11日(金)	対象：	国際ビジネス学科担当教員
内容	異文化理解の視点からその背景を捉え、より効果的な指導につなげる方法とは。		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	貿易実務ハイブリッド(物流・金融)セミナー	連携企業等：	JETRO香川貿易情報センター
期間：	令和8年10月	対象：	全教員
内容	国際物流と貿易金融の両面をわかりやすく解説		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	選ばれるInstagramコンセプトの作り方講座	連携企業等：	Setouchi i Base
期間：	令和8年9月	対象：	全教員
内容	ターゲットのニーズや競合・自社の強みを分析し、コンセプトを明確にする重要性と、AIを活用したリサーチ方法を学ぶ。		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年11月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
渡邉　浩司	香川県立高松東高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	高等学校関係
尾本　昭宣	㈱穴吹カレッジサービス　ソフト開発事業部	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
三宅　由里恵	穴吹興産株式会社	令和8年10月1日～令和9年3月31日（6カ月）	企業等委員
植田　真治	㈲サンファソン	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
橋谷　陽子	あなかれほいくえん高松	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
内海　恭子	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ保護者会	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	保護者
藤井　恵		令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/		
公表時期	令和8年3月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/		
公表時期	令和8年3月31日		

授業科目等の概要

	（商業実務専門課程 国際ビジネス学科）							授業方法			場所		教員		
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数								企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			簿記会計Ⅰ	簿記上の取引、会計単位での営利・非営利を学び、営利企業に特有の販売するための物品（商品）の購入（仕入）とその販売（売上）および銀行との取引について学ぶ。帳簿の基本的な転記を学ぶ。	1前	4	○			○			○	
2	○			簿記会計Ⅱ	簿記上の取引、会計単位での営利・非営利を学び、営利企業に特有の販売するための物品（商品）の購入（仕入）とその販売（売上）および銀行との取引について学ぶ。帳簿の基本的な転記を学ぶ。	1後	4	○			○			○	
3	○			ライセンス対策Ⅰ	業務上で必要となるWord、Excelの基本的な使い方を学び、日本語の入力および文書処理能力、情報処理能力を身につける。	1前	3		○		○		○		
4	○			ライセンス対策Ⅱ	業務上で必要となるWord、Excelの基本的な使い方を学び、日本語の入力および文書処理能力、情報処理能力を身につける。	1後	2		○		○		○		
5	○			サービス・マーケティングⅠ	サービス接遇実務について初歩的な理解を持ち、基本的なサービスを行うのに必要な知識、技能を身につける。 マーケテイングの基礎知識を身につける。	1前	2		○		○		○		
6	○			サービス・マーケティングⅡ	サービス接遇実務について初歩的な理解を持ち、基本的なサービスを行うのに必要な知識、技能を身につける。 マーケテイングの基礎知識を身につける。	1後	1		○		○		○		
7	○			データベースマーケティング	データベースに収集した顧客に関するさまざまな情報を、年齢や性別、家族構成、過去の購入履歴や興味・関心などに区分して分析し、マーケティング戦略の展開に活用するための基礎を学ぶ。	1後	2	○			○		○		
8	○			データ分析演習	Excel上でデータを読み、整理する。誰もが見やすいようにExcelの機能を有効活用し、様々な角度からデータの抽出やグラフ作成を行う。その結果、Excel操作能力のみならず、分析力も身につける。	1前	1		○		○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
9	○			営業事務演習	商品売買業を営む個人商店を設定し、仕入れと販売、およびこれらに伴って発生する文書や経理に関する業務を体験的、実践的に学習する。	1後	1		○		○		○		
10	○			簿記会計Ⅲ	全経簿記検定3級商業簿記対策授業	2前	4	○			○			○	
11	○			流通マネジメントⅠ	日本の流通業界で働く人材を育成するため、日本のコンビニ業界をベースに流通の仕組みと現状を理解し、特にコンビニ業界の経営形態のしくみを学ぶ。	2前	1		○		○		○		
12	○			流通マネジメントⅡ	日本の流通業界で働く人材を育成するため、日本のコンビニ業界をベースに流通の仕組みと現状を理解し、特にコンビニ業界の経営形態のしくみを学ぶ。	2後	1		○		○		○		
13	○			プレゼンテーション演習Ⅰ	業務上で必要となるPowerPointの基本的な使い方を学び、プレゼンテーション資料作成能力を身につける。	2前	1		○		○		○		
14	○			プレゼンテーション演習Ⅱ	業務上で必要となるPowerPointの基本的な使い方を学び、プレゼンテーション資料作成能力を身につける。	2後	1		○		○		○		
15	○			ライセンス対策Ⅲ	表計算、日本語ワープロ共に個人の実力に合わせた目標受験級対策を行う。	2前	1		○		○		○		
16	○			ライセンス対策Ⅳ	表計算、日本語ワープロ共に個人の実力に合わせた目標受験級対策を行う。	2後	1		○		○		○		
17	○			労務管理論Ⅰ	人事・労務の知識を学ぶ。「働き方改革」の中での働き方の多様性、外国人労働者の重要性を学ぶ。企業にとっての「人財」となるにはどうすべきなのか学生の自発を促す。	2前	2	○			○		○		

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
18	○			労務管理論Ⅱ	人事・労務の知識を学ぶ。「働き方改革」の中での働き方の多様性、外国人労働者の重要性を学ぶ。企業にとっての「人財」となるにはどうすべきなのか学生の自発を促す。	2後	4	○			○		○		
19	○			卒業制作Ⅰ	これまで学んできたことを活用して、留学生の就職先、後輩や穴吹を希望している留学生、母国の学生に対してアピールできる企画を個人、チームで企画し、具現化する。	2前	2		○		○		○		○
20	○			卒業制作Ⅱ	これまで学んできたことを活用して、留学生の就職先、後輩や穴吹を希望している留学生、母国の学生に対してアピールできる企画を個人、チームで企画し、具現化する。	2後	3		○		○		○		○
21		○		応用日本語Ⅰ中級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	1前	4		○		○		○	○	
22		○		応用日本語Ⅰ中上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	1前	4		○		○		○	○	
23		○		応用日本語Ⅰ上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	1前	4		○		○		○	○	
24		○		応用日本語Ⅱ中級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	1後	4		○		○		○	○	
25		○		応用日本語Ⅱ中上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	1後	4		○		○		○	○	
26		○		応用日本語Ⅱ上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	1後	4		○		○		○	○	

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
27	○			キャリアデザインⅠ	ビジネス文書には一定の型や特有の言葉遣いがあり、それを会得し、ビジネスの場に対応できる正確・迅速な文書の書き方を学ぶ。	1前	1		○		○		○		
28	○			キャリアデザインⅡ	ビジネス文書には一定の型や特有の言葉遣いがあり、それを会得し、ビジネスの場に対応できる正確・迅速な文書の書き方を学ぶ。	1後	1		○		○		○		
29	○			ビジネス英会話	接客英語ーホテル、旅館などで使われる英語、観光案内英語など、ホテル・トラベル業界に必要となる基本的な英語を身につけて、国際文化、習慣なども理解する。また瀬戸内の観光地を簡潔に案内できる英語を習得する。	1後	1		○		○			○	
30	○			ビジネス日本語Ⅰ	実際の日本の会社で日常的に起こる出来事や場面を理解したり、状況にふさわしい会話や表現、行動を学習する。日常的に使われる漢字の読み書き、筆順、四字熟語などの知識を身につける。	1前	2	○			○		○		
31	○			ビジネス日本語Ⅱ	実際の日本の会社で日常的に起こる出来事や場面を理解したり、状況にふさわしい会話や表現、行動を学習する。日常的に使われる漢字の読み書き、筆順、四字熟語などの知識を身につける。	1後	2	○			○		○		
32		○		応用日本語Ⅲ中級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	2前	4		○		○		○	○	
33		○		応用日本語Ⅲ中上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	2前	4		○		○		○	○	
34		○		応用日本語Ⅲ上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	2前	4		○		○		○	○	
35		○		応用日本語Ⅳ中級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	2後	4		○		○		○	○	

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
36		○		応用日本語Ⅳ中上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。中上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	2後	4		○		○		○	○	
37		○		応用日本語Ⅳ上級	言語知識、読解、聴解を総合的に学び、日本語による理解力・表現力を高める。上級の習熟度に応じた学習を行い、日本語能力試験の合格を目指す。	2後	4		○		○		○	○	
38	○			キャリアデザインⅢ	就職に対する意識付けを行うことにより、就職活動を円滑に行う知識を習得する。 就職活動における履歴書作成から会社訪問から面接試験までの一連のノウハウを習得する。	2前	1		○		○		○		
39	○			キャリアデザインⅣ	就職に対する意識付けを行うことにより、就職活動を円滑に行う知識を習得する。 就職活動における履歴書作成から会社訪問から面接試験までの一連のノウハウを習得する。	2後	1		○		○		○		
40	○			ビジネス日本語Ⅲ	実際の日本の会社で日常的に起こる出来事や場面を理解したり、状況にふさわしい会話や表現、行動を学習する。日常的に使われる漢字の読み書き、筆順、四字熟語などの知識を身につける。	2前	2	○			○		○		
41	○			ビジネス日本語Ⅳ	実際の日本の会社で日常的に起こる出来事や場面を理解したり、状況にふさわしい会話や表現、行動を学習する。日常的に使われる漢字の読み書き、筆順、四字熟語などの知識を身につける。	2後	2	○			○		○		
合計					41 科目		70 単位								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①必修及び選択必修全科目の成績がＣ評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が９０％以上 ③学費が納入されていること 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	所定科目を履修し、各科目の合格基準により単位を認定する。 なお応用日本語は各期に習熟度別3科目から1科目を選択する。	１学期の授業期間	15 週

（別紙様式4）

令和8年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校穴吹ITビジネスカレッジ	平成4年4月1日	鏡原　寿吉	〒　760-0021 （住所）　香川県高松市西の丸町14-10 （電話）　087-822-3001
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人穴吹学園	平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒　760-0020 （住所）　香川県高松市錦町1-22-23 （電話）　087-823-2266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
衛生	衛生専門課程	パティシエ・ベーカリー学科	平成22(2010)年度	－	平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	製菓・製パンの分野における高度な専門技術や知識を身に付けた人材を輩出する
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	製菓・製パンに関する基本的な知識や安全でおいしい商品を作る技術を習得し、国家試験（製菓衛生師）の合格を目指す。

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	62　単位	21 単位	39 単位	5 単位	2 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
60 人	39 人	0 人	0 %	13 %

就職等の状況

■卒業者数(C)	18	人
■就職希望者数 (D)	18	人
■就職者数 (E)	17	人
■地元就職者数 (F)	12	人
■就職率 (E/D)	94	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	71	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	94	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

製菓、製パン業　等

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/patissier/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

総単位数		62 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	38 単位
	うち必修単位数	62 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	38 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		3 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年11月28日　17:00～18:00/第2回　令和8年2月18日　16:30～17:30
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
野﨑　幸三	香川県洋菓子協会	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
植田　真治	㈲サンファソン	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
八十川　浩一	合同会社Y2　BLEND　LLC	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
鏡原　寿吉	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	ー
壽福　英尚	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　副校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	ー
松元　賢一	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ　第1教務部教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	ー
岡田　大海	専門学校　穴吹ビジネスカレッジ　第1教務部教務課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
フードマネジメント	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	時代のニーズに沿ったショップの運営・店作りの基本を学ぶ。	合同会社ツツク、㈱百十四銀行
洋菓子実習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	洋菓子を実際に製造することで、その技術・工程を理解する。さらに、イメージから完成まで個人、班単位で作品を作り上げることによって菓子作りの楽しさ、難しさを実感する。	㈱ルーヴ
製菓実習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	和・洋菓子およびパンを実際に製造することで、その技術・工程を理解する。	㈱ルーヴ
バリスタ実習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	カフェの実務（コーヒーの技術）を経験し、一定レベルの製品制作の技術を習得する。	株式会社サニーサイド
ショコラティエ実習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	チョコレートの製造や技術、特性を理会することにより、チョコレートの知識や製造技術の習得をする。	株式会社サニーサイド

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
教職員研修規定に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的として、企業や各種団体との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施していく。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	工芸菓子講習	連携企業等：BRAND　NEW　DAY
期間：	令和7年10月	対象：製菓系職員
内容	チョコレート、アメ細工の大型作品の制作方法	
研修名：	洋菓子講習会	連携企業等：香川県洋菓子協会
期間：	令和7年10月	対象：製菓系職員
内容	モンブランレジェール、焼き菓子（フィナンシェ）の制作について	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	キャリアサポーター養成講座	連携企業等：穴吹総合研究所
期間：	令和7年8月	対象：全教員
内容	キャリアサポーターとしての対応力を身につける	
研修名：	キャリアデザイン研修	連携企業等：穴吹総合研究所
期間：	令和7年9月	対象：全教員
内容	今後のキャリアについて考え、専攻分野における知識・技術の伝承方法について学ぶ	

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	香川県洋菓子協会 2026 秋 講習会	連携企業等：香川県洋菓子協会
期間：	令和8年10月	対象：製菓系職員
内容	パティシエの世界大会「クープ・デュ・モンド・ドゥ・ラ・パティスリー2023」で活用したお菓子の構成やレシピ考え方を交えつつ、店頭で販売予定の洋菓子のデモンストレーションを行う	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	ホテルクレメント高松「食品ロス削減と私たちの責務」	連携企業等：日本ホテル株式会社
期間：	令和8年9月	対象：全教員

内容	SDGsの概要、日本と世界の食品ロスの現状、日本の食料自給率、およびmottECO（食べ残しの持ち帰り）についての講演
研修名：	中途退学予防と学生支援　　連携企業等：東京都市大学
期間：	令和8年11月　　対象：全教員
内容	AI・データから早期に読み解く予兆と具体的な支援策を学ぶ

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
（4）教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	

①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
渡邉　浩司	香川県立高松東高等学校	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	高等学校関係
尾本　昭宣	㈱穴吹カレッジサービス　ソフト開発事業部	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
三宅　由里恵	穴吹興産株式会社	令和8年10月1日～令和9年3月31日(6カ月)	企業等委員
植田　真治	㈲サンファソン	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
橋谷　陽子	あなかれほいくえん高松	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業等委員
内海　恭子	専門学校穴吹ITビジネスカレッジ保護者会	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者
藤井　恵		令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/		
公表時期	令和8年3月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://web.anabuki-college.net/		
公表時期	令和8年3月31日		

授業科目等の概要

	（衛生専門課程 パティシエ・ベーカリー学科）							授業方法			場所		教員		
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数								企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			衛生法規	基礎的法体系を把握し、製菓衛生師法の意義を理解する。またそれの関連法令の知識を学ぶ。	1後	1	○			○			○	
2	○			公衆衛生学	生命と健康を脅かす社会的医学的要因について理解し、その予防ならびに衛生管理について学ぶ。	1通	2	○			○		○		
3	○			食品学	多様化する食品に対応し、食品に関する専門的知識（食品の成分や性質、食品の変質及び防止法、食品の生産・輸入・流通）を理解し、製菓衛生師として各食品を適切に選択して活用できる知識を身につける	1通	2	○			○			○	
4	○			食品衛生学	食品衛生の目的は「飲食に起因する衛生上の危害発生を防止し、公衆衛生の向上および増進に寄与すること」である。飲食に携わる製菓衛生師として、食品の変質や食中毒発生要因・状況、食品添加物、寄生虫、食品汚染についての基本的な知識を習得し、その予防方法、衛生管理などを身につける。	1通	4	○			○		○		
5	○			栄養学	健康の維持増進のため、栄養の意義・栄養素の機能・消化吸収・体内での代謝など基礎的知識を理解する。また、栄養の摂取状況を把握し、各ライフステージの栄養や栄養と疾病の関係についての知識を身につける。	1通	2	○			○		○		
6	○			社会	食生活における菓子・パンのあり方を学び、菓子店経営に必要な知識を理解する。	1前	1	○			○			○	
7	○			製菓理論	菓子の原材料ならびに補助材料についての知識を学ぶ。	1通	3	○			○			○	
8	○			製菓実習	和・洋菓子およびパンを実際に製造することで、その技術・工程を理解する。	1通	16		○		○		○	○	○
9	○			洋菓子実習Ⅲ	洋菓子を実際に製造することで、その技術・工程を理解する。さらに、イメージから完成まで個人、班単位で作品を作り上げることによって菓子作りの楽しさ、難しさを実感する。	2後	2		○		○		○	○	○

10	○			和菓子実習	和菓子を実際に製造することで、その技術・工程を理解する。さらに、イメージから完成まで個人、班単位で作品を作り上げることによって菓子作りの楽しさ、難しさを実感する。	2前	1		○		○		○	○	○
11	○			卒業研究 ・製作Ⅱ	卒業記念作品を制作し、2年間の総仕上げとする。	2後	5		○		○		○	○	
12	○			カフェ ・店舗実習	材料の仕入れから製造、販売、カフェで販売する製品のデザイン決め、大量の製品の作成等を行う。ドリンクについても学ぶ。カフェの実務を経験する。	2後	3		○		○		○	○	○
13	○			ベーカリー実習	各国の代表的なパンを習得する。製パン店規模のパン生地の仕込から焼成までの全工程を段階的に習得する。製パンの応用技術を学びながら、調理パンと菓子パンの製造法を習得する。	2通	4		○		○			○	○
14	○			バリスタ実習	カフェの実務（コーヒーの技術）を経験し、一定レベルの製品制作の技術を習得する。	2前	1		○		○			○	○
15	○			食と色彩	さまざまな食の場面、食を取り巻く環境について学習する。地域に根差した食品についての知識や技術を養う。色彩の基本理論を身につけ、食空間を効果的に演出する方法を習得する。	2前	1	○			○			○	
16	○			製菓・製パン教養	パティシエ・ブーランジェとして身につけておく事が望ましいマナー・教養を身につける。	2前	1		○		○			○	○
17	○			接客マナー	専門職（パティシエ・ブーランジェ）にふさわしい言葉づかいや接客技術について学ぶ。	2前	1	○			○			○	○
18	○			コンピュータ実習	情報社会の本質を理解する。パーソナルコンピュータを中心とした情報機器の使用方法を学び、日常に利用できるようにする。	2前	1		○		○		○	○	
19	○			フードマネジメント	時代のニーズに沿ったショップの運営・店作りの基本を学ぶ。	2前	1	○			○		○	○	○
20		○		洋菓子実習Ⅰ	洋菓子を実際に製造することで、その技術・工程を理解する。さらに、イメージから完成まで個人、班単位で作品を作り上げることによって菓子作りの楽しさ、難しさを実感する。	2前	1		○		○		○	○	○
21		○		洋菓子実習Ⅱ	洋菓子を実際に製造することで、その技術・工程を理解する。さらに、イメージから完成まで個人、班単位で作品を作り上げることによって菓子作りの楽しさ、難しさを実感する。	2前	5			○	○		○	○	○
22		○		卒業研究 ・製作Ⅰ	卒業記念作品を制作し、2年間の総仕上げとする。	2前	2		○		○		○	○	

23		○		菓子技術	菓子製造技能士２級の実技試験対策をする。ナッペ、被膜、絞り、パイピングの技術演習をする。	2前	1	○			○		○	○	○
24		○		ショコラティエ実習	チョコレートの製造や技術、特性を理解することにより、チョコレートの知識や製造技術の習得をする。	2前	1	○			○			○	○
合計					23 科目						62 単位					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①必修及び選択必修全科目の成績がＣ評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が８０％以上 ③学費が納入されていること 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する。	１学期の授業期間	15 週